

「有機質資材の肥効見える化アプリ」を活用した 露地野菜の減化学肥料栽培技術

【概要】

Web上で公開された「有機質資材の肥効見える化アプリ」は、堆肥の窒素・リン酸・カリ肥効を簡単に計算できるものです。岩手県では、このアプリを活用して露地野菜（3品目・4事例）での減化学肥料栽培の実証試験を行いました。ここでは、令和5年度に実施したキャベツの試験結果をご紹介します。

- 1 アプリを用いて鶏ふん堆肥からの養分供給量（減肥可能量）を計算し、化学肥料を約3割削減する施肥設計としました（表1）。
- 2 化学肥料のみで栽培した場合と同等の収量を確保できます（図1）。

【試験データ等】

試験場所：北上市（農業研究センター内ほ場）

品目：キャベツ（夏さやか）

定植：8/1、収穫：10/11

表1：施肥設計

	成分施用量(kg/10a)	窒素		
		リン酸	カリ	
対照区	化学肥料からの供給量	21.6	24	18
	堆肥からの供給量	3.5	10.8	7.4
減肥区	化学肥料からの供給量	18.1	13.2	10.6
	合計	21.6	24	18
	減肥率 (NPK成分量%)	36%		

鶏ふん堆肥からの養分供給量の計算

施用量：420kg/10a

堆肥分析値

水分 (%)	ADSON (mgN/g乾物)	全窒素 (%)	リン酸 (%)	カリ (%)
13.4	28.15	3.97	4.05	2.27

↓ アプリに入力



出荷規格割合

□ M：0.7～1.0kg

□ L：1.0～1.5kg

■ 2L：1.5～1.9kg

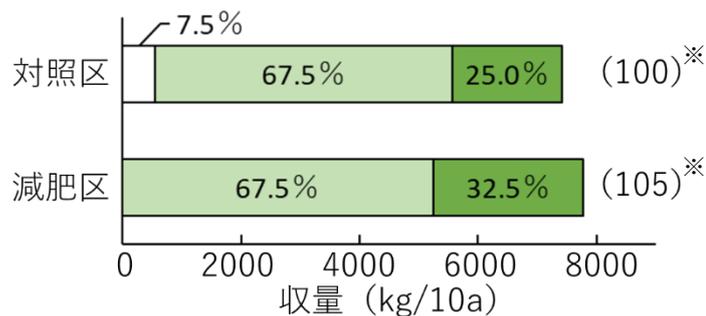


図1 収量調査結果

※対照区収量を100とした場合の収量比

参考：日本土壌インベントリー「[有機質資材の肥効見える化アプリ](#)」

【令和7年度成果】「有機質資材の肥効見える化アプリ」を活用した露地野菜の減化学肥料栽培技術 (R7-指-21)